

2020 年度大学入試 受験生の傾向 ～高校教員アンケート結果より～

河合塾

2020/1/10

河合塾では進路担当の高等学校教員を対象に、今年の受験生の志望校や進路選択における傾向についてアンケート調査を実施した。下記にその結果をまとめた。

■強まる安全志向、推薦・AO入試を積極的に利用したい受験生は増加傾向

河合塾では、昨年 10 月下旬から 12 月中旬にかけて、進路指導に携わる高等学校の教員を対象に、入試分析報告会を実施した。そのうち全国 62 会場で、受験生の進路選択の意識変化についてアンケート調査（文末※参照）を行った。

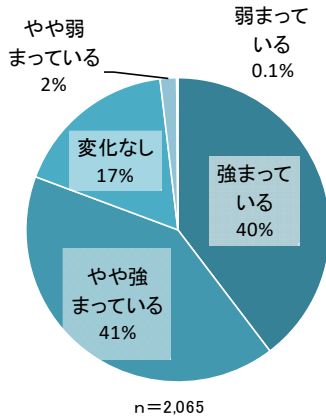
＜グラフ 1＞は今年の受験生の志望校選定に関する傾向などについて質問した結果である。

「①推薦・AO入試を積極的に利用したがる傾向」は、「強まっている」「やや強まっている」を合わせた「強まる」傾向が全体の 81% を占め、昨年度の同アンケートから 5% 上昇した。新入試を翌年に控えていることや、近年、都市部の大規模私立大を中心に入試が難化したことなどにより、推薦・AO入試を利用して早期に進学先を決定したいという受験生の志向が昨年以上に強まっている様子がうかがえる。

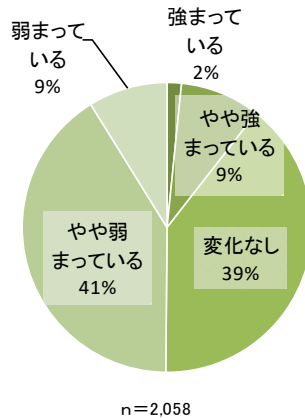
「②チャレンジ志向（目標を高く設定する傾向）」では、「弱まっている」「やや弱まっている」を合わせた「弱まる」傾向が全体の半数を占め、昨年度の同アンケートから 9% 上昇した。推薦・AO入試を積極的に利用しようとする傾向が強まっているのと同様に、翌年に新入試を控えていることなどを受けて、少し目標を下げてでも今年中に大学進学を果たそうと考えている受験生が増加しているといえるだろう。

＜グラフ 1＞志望校・受験校選定における受験生の傾向について

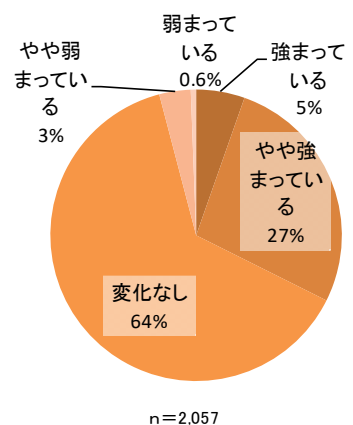
① 推薦・AO入試を積極的に利用したがる志向



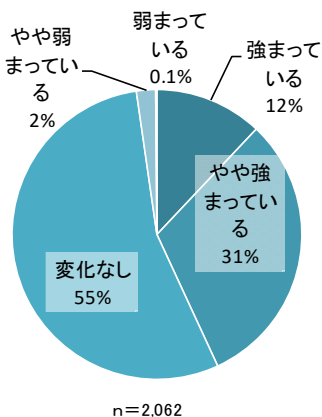
② チャレンジ志向（目標を高く設定する傾向）



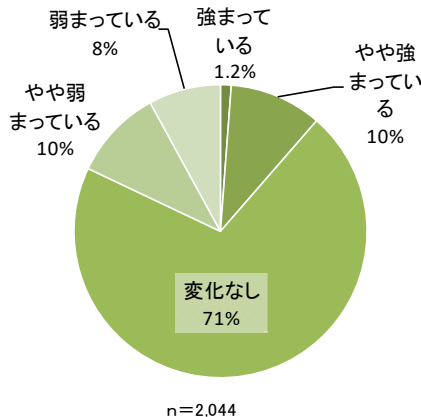
③ 就職を意識した学部系統選びをする傾向



④ 通学可能な範囲の大学を選ぶ志向



⑤ 大学・短大より専門学校を選ぶ傾向



「③就職を意識した学部系統選びをする傾向」では、「変化なし」の回答が全体の6割以上を占め、最多であった。また、「強まっている」「やや強まっている」の回答は32%で、「変化なし」と合わせて9割以上となっている。近年、大卒の就職状況が改善しているとはいえ、大学進学時に就職を意識した学部選びをする傾向に大きな変化はないと言っていだろう。

「④通学可能な範囲の大学を選ぶ志向」では、「変化なし」の回答が全体の半数以上を占め、「強まっている」「やや強まっている」の回答は43%となった。全国的には通学可能な範囲の大学を選ぶ志向がやや強まっているといえる。地区別にみると、北海道地区、東北地区といった大学数が少ない地区では「強まっている」「やや強まっている」の回答は4割以下に留まっており、他地区に比べ、通学可能な範囲の大学を選ぶ志向がやや弱い様子が見える。

「⑤大学・短大より専門学校を選ぶ傾向」は、「変化なし」の回答が71%と、高等学校の教員が大きな変化を感じていない様子が見える。ただ、「弱まっている」「やや弱まっている」を合わせた「弱まる」傾向の割合は「強まっている」「やや強まっている」を合わせた「強まる」傾向を上回っており、短大を含めた「大学」への進学志向が強い状況が見える。

■「奨学金の活用を考える生徒」の増加は約6割の先生が実感

<グラフ2>は、進路選択や奨学金の活用についてである。

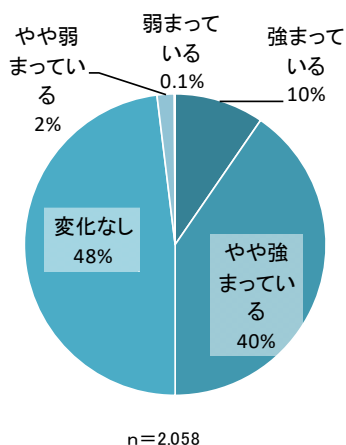
「⑥進路選択・決定における保護者の意向」は「強まっている」「やや強まっている」を合わせた「強まる」傾向が全体の半数を占めた。一方で「弱まっている」「やや弱まっている」を合わせた「弱まる」傾向はほとんど見られない。近年この割合はほとんど変動せず、子どもの進路決定に保護者が深く関わる傾向が弱まることはなさそうである。

「⑦奨学金・奨学金制度の活用を考える生徒」では、「増えている」「やや増えている」「変化なし」で大半を占め、「減っている」「やや減っている」の回答はほとんど見られない。近年、大学独自の奨学金制度の導入・拡大が進んでいることや、2020年度より国による新しい修学支援制度の発足など、奨学金を充実させる動きがあることもあり、活用を考える傾向は年々強まりを見せている。

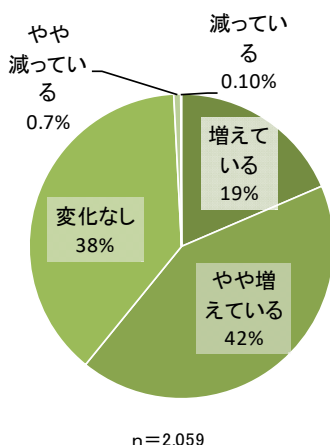
「⑧家庭の事情で大学への進学自体を見直す生徒」では「変化なし」の回答が74%と、大きな変化を感じていない様子が見える。ただ、「減っている」「やや減っている」を合わせた「減る」傾向は全体のわずか3%程度であり、依然として家庭の経済環境の厳しさが高校生の進学に影響を与えている様子が見える。

<グラフ2> 就職環境・家庭環境による進路選択の変化と奨学金の活用について

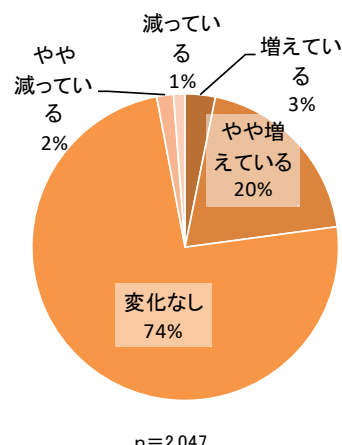
⑥ 進路選択・決定における保護者の意向



⑦ 奨学生・奨学金制度の活用を考える生徒



⑧ 家庭の事情で大学への進学自体を見直す生徒



※アンケート概要

実施期間：2019年10月～12月

対象：高等学校教員 回答者数：2,103名（文中のグラフはこのうち未回答者を除いて集計）